

産業連携ネットワーク会員 取組紹介 (東日本旅客鉄道株式会社)

1. 取組の題名

安心・安全な農産物の生産
(有機リサイクル農園の開園と農業生産法人の設立)

2. 取組の概要と成果

安心・安全な農産物を生産するため、東日本旅客鉄道（株）のグループ会社である（株）日本レストランエンタプライズ（NRE）では、1998年に、常磐線友部・内原駅間の操車場跡地に「NRE友部有機リサイクル農園」（「リサイクル農園」）を開園し、有機栽培を実験的に開始した。開園当初は約2haの面積で約10トンの生産量であったが、現在では約3ha、約65トンまで拡大している。

また、2009年4月には、やまと農業共同組合（「JAやまと」）及び地元生産者との共同出資による農事組合法人「みどりの線路」を設立し、約3haの農地で生産された野菜をNREのエキナカ店舗等で利用している。規格外品も含めた全量出荷による安定的な生産活動が可能であることから、若い生産者を中心に同法人への出資希望があり、隨時出資者の増員を行っている

3. 取組にあたり活用した技術、ノウハウ等

及び 4. 取組にあたり連携、共同した者及びその内容

「リサイクル農園」の開園時は、土壤改良や有機栽培に伴う雑草処理の作業負担等、農業に関する技術等を向上させることが課題であり、「JAやまと」の技術協力をいただき生産体制を築きあげた。

「リサイクル農園」や「みどりの線路」で生産された農産物については、安定的な供給先を確保する必要があるため、NRE工場での使用量増加やエキナカ店舗での販売等を行っている。

さらに、NREでは、「JAやまと」との協力関係のもと、組合員の生産した米や野菜等の仕入れを行うとともに、店舗から発生した生ゴミをリサイクル処理した肥料を組合員の方に使用していただくなど、地元と連携した農業の活性化と食品リサイクルに取り組んでいる。

5. 今後の展開

生産体制の強化による生産量の拡大を目指す。また、エキナカ店舗での食材使用や店頭販売等により利用機会を増やしていく。

【連絡先】東日本旅客鉄道（株）事業創造本部 地域活性化部門
TEL:03-5334-1258 FAX:03-5334-1263

産業連携ネットワーク会員 取組紹介 (東日本旅客鉄道株式会社)

1. 取組の題名

青森りんごを活用した青森エリア活性化の取組み
(アオモリシードルの製造販売)

2. 取組の概要と成果

2010年5月に(株)JR東日本青森商業開発を設立し、青森市の「青森駅を中心としたまちづくり」構想に参画しつつ、ウォーターフロントエリアに青森県産りんごをシードル等に加工する“工房”と、青森県の名産品等を販売する“市場”の複合施設「A-FACTORY」を同年12月4日に開業した。

シードルに加工することでりんごの新たな消費方法や楽しみ方を提案し、またシードルの首都圏での消費を図るための情報発信を行い、シードルとともに青森の認知向上につなげた。さらに、シードル加工風景を見学することができる“見せる工房”や厳選した地元こだわりの食材が楽しめる施設として、首都圏等からの観光客とともに地元の方々の多くの利用をいただいており、青森駅周辺の新たな観光エリアとなっている。

また、シードル製造や販売業務等として60名程度の就労機会を創出した。

3. 取組にあたり活用した技術、ノウハウ等

及び 4. 取組にあたり連携、共同した者及びその内容

開業にあたり、シードル加工技術等が全くないゼロからのスタートであり、それらの習得が最大の課題であったが、地元の協力により克服できた。

シードル加工技術は、独立行政法人青森県産業技術センター弘前地域研究所の監修をいただくとともに、醸造方法は、地元の六花酒造(株)の協力を得ることができた。また、原料仕入や搾汁後のりんごの再利用等でも地元との連携を図っている。

5. 今後の展開

商品アイテム数増加や首都圏での販売拡大等によりアオモリシードルの認知度や魅力向上を図り、シードルに対する地元の方々の関心を高めていく。

そして、将来的にはA-FACTORYでの取り組みを参考に、地元のメーカーや農家がシードル加工に参入し、地域一体での「シードルの青森」を創り出すことを目指している。

【連絡先】東日本旅客鉄道(株)事業創造本部 地域活性化部門
TEL:03-5334-1258 FAX:03-5334-1263